

第198回 東葛しぜん観察会

船橋の鈴見で秋の里山を楽しもう

中川雅博（船橋市）

日 時：2024年10月13日（日）10時～12時、天候：晴れ

参 加 者：14名（大人13名、子ども1名） 指導員14名

担当指導員：勝股、梁川、山口、中川

秋の心地よい晴天の中、船橋市の鈴見地区にて自然観察会を実施しました。

参加者は14名で、さまざまな生き物や植物を観察しながら秋の訪れを感じました。

初めにドングリの森にて、ナラ枯れ病の原因と対策について説明があり、カシノナガキクイムシとナラ菌の共生関係という不思議な生態に参加者の皆さんは真剣に耳を傾けていました。

そこからは3班に分かれて、行々林（おどろばやし）を抜けて、台地から平地へと約3kmの道のりを観察しながらハイキングしました。道中では、紫色の実をつけたムラサキシキブや、秋の彩りを添えるアキノノゲシ、ヒヨドリバナ、カラスウリ、サクラタデなどを観察しました。普段はあまり違いを感じることがないドングリも、コナラ、アカガシ、マテバシイをじっくりと見比べたり、殻斗の紋様や触り心地を確かめたりして、違いを感じていました。また、オナモミ、ヌスピトハギ、ジュズダマ、カナムグラなどを虫眼鏡で観察しながら、多様な植物の生存戦略に皆さん感心ひとしきりでした。そして、何より食欲の秋ということもあり、落ちている立派なクリの実やエゴマの穂や葉っぱに关心が集まり、どうやって食べるのかという議論に花が咲きました！

平地に降りてくると、エンマコオロギの合唱が聞こえる中、アオスジアゲハやキタテハが飛び回る姿に、秋ならではの昆虫の美しさも感じることができました。

参加者の皆さんからは、お渡しした資料の“写真”と“名前”的答え合わせをしながら、「新しい植物の名前を知ることができてよかったです」「秋の自然に触れ合えて楽しかった」「秋の彩りや味覚を体験できてよかったです」といった感想が寄せられ、充実した秋の1日を過ごせたことが伺えました。



ナラ枯れ病の説明に耳を傾ける



立派なカラスウリ



参加者の皆さんで答え合わせ！